

ラッカセイ調査の紹介

札幌市農業支援センターで平成23年から行っている、ビニールハウスでのラッカセイの栽培調査の結果をご紹介します。調査した品種は、「郷の香」、「ナカテユタカ」、「タチマサリ」の3品種です。

ラッカセイは、生育初期の保温が重要であるため、育苗ハウスで加温し4月20日に播種したところ、1週間程度で約半数の株に発芽が見られ、最終的にはほとんどが発芽し、灰カビ病の発生も少なく生育良好でありました。播種から約2週間後の5月4日に10.5cmポットに鉢上げを行い、5月21日に定植を行いました。

定植後は、極早生の「郷の香」「タチマサリ」と比較し、中生の「ナカテユタカ」の開花が1週間ほど遅く、収穫も10日程度遅れましたが、どの品種も生育は順調でありました。

6・7月は、高温期や少雨期による品質の影響は確認されず順調に生育し、病虫害などによる生育への影響も特に確認されず、品種間による差や病気の発生も少なく、薬剤の使用を抑えることが可能となりました。

当初、開花後80日を目安に下葉が3割ほど枯れたのを目安に、試し掘りの後収穫する予定でしたが、開花後120日を過ぎても、下葉に枯れが見られず、10月中旬の段階で試し掘りを行い、収穫を行いました。



写真1 郷の香 (10/17収穫)



写真2 ナカテユタカ(10/28収穫)



写真3 タチマサリ (10/17収穫)



写真4 各品種むき身 左から郷の香、ナカテユタカ、タチマサリ

表1 食味試験結果 (煎り)

品 種	食味試験結果 (5段階)		
	硬 さ	甘 み	食味 (総合)
郷の香	3.2	3.4	3.7
ナカテユタカ	3.5	3.0	3.2
タチマサリ	3.7	3.7	3.7

表2 ラッカセイ各品種の調査結果 (各品種設付き5株調査)

	個数(5株平均)	重量(g)5株平均	反収(kg)	反収のうち規格内品(kg)	規格内品率(%)
郷の香	93.2	214.4	893.2	828.7	92.8%
ナカテユタカ	120.0	218.7	911.4	847.3	93.0%
タチマサリ	106.0	209.9	874.7	816.4	93.3%

煎ったラッカセイにより食味試験を行った結果は、各品種とも食味は良好でありました。

最近では、北海道において、温暖化に伴いラッカセイを栽培している地域が見られるようになってきましたが、国内では、千葉県が産地の中心であり、道内産ラッカセイについては直売所等で少々売られているのが実態です。

今後の展望としては、とれたてのものを茹でラッカセイ用に販売するのが珍しく、人気を集める可能性が考えられます。

問 い 合 わ せ 先

札幌市農業支援センター

Tel.787-2220